

ひかりのこ

11月園便り

聖ミカエル幼稚園
2018年10月18日

月主題：遊びこむ

「実りの秋を迎えて」

先日幼稚園で収穫感謝礼拝が行われ、子どもたちは小さなお手々に、リンゴや柿、ジャガイモ、ぶどう、ピーマン、トウモロコシなど秋のお野菜や果物をお家から持ってきてくれました。礼拝で、下澤先生がお祈りをして、聖水をかけて聖別してくださり、礼拝後には、年中さんがご近所にそれらを配りに行きました。毎年行われる心が豊かになる行事です。

私が野幌の畑で育てている大根や白菜も、大きくなってきました。10月末から11月に収穫するのが楽しみです。白菜も大根も8月初旬に種をまきます。出来上がりは大きな重たいお野菜ですが、種は本当に小さく、指先でつまんで落とさないように撒きます。白菜は直に畑に撒くと出てこないことがあるので、種まきポットに丁寧に撒いて、家で一か月ほど育ててから、畑に苗を植えます。大根は、3粒ずつ畑に直播し、葉っぱが育ってきたら、二つは抜いて、大根菜として楽しめます。

冬のお野菜ですから、虫もいなくなっているので、私の様に無農薬で野菜を育てても、立派に育ちます。手はかかりますが、あの小さな種が、数千倍もの大きさになるのですから、感無量です。そして、できたお野菜を、親せきや、職場や、教会の方たちに分けて、みんなで秋の恵みをいただくことも、楽しみの一つです。だから野菜作りはやめられません。

野菜作りと子育てを一緒にすると怒られそうですが、やっぱり似ています。上手に手をかければ、良く育ちます。放任したり、やたらに大事にしすぎたりすると、あまりよく育ちません。マニュアル通りでもうまいかないことが多々あります。そして、どちらか一人では育てられない、ということです。お野菜は、天からのお日様と、雨と、土の恵みがなければうまく育ちません。

子どもたちも、たくさんの「良い考え」を持った大人たちと、良い環境があってこそ、すくすく大きくなります。一年の後半に入り、聖ミカエル幼稚園の子どもたちは、みんなよく育ってきました。これから行われる生活発表会、クリスマスの

聖劇では、そのよく育った姿を保護者の皆様にもお見せできると思います。子どもの成長を神様に感謝して、これからも、私たち大人の知恵を集め、子どもたちをともに育てていきましょう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

海外では資産家や有名人が、福祉団体や教育機関などに多額の寄付をすることが当たり前のように行われます。財産を持つ者が困っている人に手を差し伸べることに異論が出たという話を聞いたことがありません。ところが日本では、たとえば有名な芸能人が同じことをすると、ただちに「偽善者」、「売名行為」という声が上がります。なぜでしょうか。それでも最近では、気骨のある芸能人が良い意味で聞き直して、何と言われようと寄付をしたり、被災地などで支援活動をするようになってきました。私たちも、なけなしのお金を寄付する際に、自分のしていることが何となく「偽善っぽい」と思うことがないでしょうか。でもそれは偽善ではなく、正しい「善」なのです。

聖書では、富む者と貧しい者の関係が常に問題になります。イエス様は、「金持ちが天国に入るよりは、らくだが針の穴を通る方がはるかに易しい」と言いました。徹底的に金持ちを批判するのです。ただし、財産を売り払い、貧しい人にほどこせば大丈夫と付け加えます。聖書の考えでは、貧しく暮らすよりも、財産を独り占めするほうが、はるかに人として恥ずかしいことなのです。

東京の南青山に児童相談所を新設する計画が明らかになって、一部の住民から、青山のブランドに傷が付く、地価が下がるなどの反対意見が出たというニュースを見て複雑な気持ちになりました。児相が近くにあると、そんなに困ったことが起こるのでしょうか。

シンプルに、自分よりも困っている人の立場になって考える、私たちがそういう想像力を持てれば、きっと社会は住み良くなるのにと思うこの頃です。

チャプレン 司祭 下澤 昌